

調査報告

宮崎県民の生涯学習

—学習活動と学習希望の様相を中心に—

原 義彦 緒方明夫 草野勝彦

橋迫和幸 岡安孝弘

はじめに

本稿は、宮崎県民の生涯学習調査¹⁾をもとにして県民の学習活動の実態と希望を明らかにするものである。さらに、県民の学習希望がどの程度充足されているかについても明らかにすることにする。

現在、わが国では、生涯学習推進が課題の1つになっている。そのためには、法整備など国レベルでの生涯学習の基盤整備だけでなく、都道府県や市町村レベルで人々の生涯学習を支援するための条件整備が必要である。さらに、生涯学習の推進のためには、人々の学習活動の実態や学習要求の把握が不可欠である。本調査はそのような必要性から行われたものである。ここでは、とくに今後の学習機会提供のための手がかりとなる学習活動の実態と希望を取り上げて報告することにする。さらに、学習希望と実際の学習活動の差から、県民の学習要求がどの程度充足されているかを明らかにする。

1 学習活動の様相

ここでは、宮崎県民の学習活動の実態を明らかにする。

(1) 学習の内容

宮崎県民はこの1年間にどのような内容の学習をしているのだろうか。県民全体では、「何もしていない」人が37.0パーセントであるから、63.0パーセントの人が何らかの学習をしたことになる(表1-1)。「体力づくりや運動」が最も多く26.1パーセントであり、約4人に1人がこのような学習をしていることになる。第2位は「趣味に関するもの」で18.5パーセント、第3位は「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」で11.9パーセントである。

これを性別でみると、男性では「体力づくりや運動」が30.1パーセントで最も高く、次いで「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」(17.5パーセント)、「趣味に関するもの」(16.8パーセント)となっている。女性の学習内容で最も高いのも「体力づくりや運動」(22.6パーセント)であるが、これは男性と比べると若干低くなっている。2番

表1-1 性別にみた学習内容

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	健康に関するもの	管関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	家庭生活に関するもの	生関するもの	育・教育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・検定に関するもの	取検に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	特に何もしていない
全体	10.5	18.5	6.5	9.0	26.1	2.5	8.5	5.7	11.9	6.4	5.1	3.2	37.0			
男	11.8	16.8	8.7	10.3	30.1	1.0	0.8	4.0	17.5	9.1	5.5	3.5	34.9			
女	9.3	19.9	4.6	7.9	22.6	3.8	15.2	7.2	7.0	3.9	4.7	2.8	38.8			

(複数回答)

目に多いのが「趣味に関するもの」(19.9パーセント)、3番目に多いのが「家庭生活に関するもの」(15.2パーセント)である。

さらに、これを年齢別にみてもみることにしよう(表1-2)。これによると、20歳未満から40歳代までは「体力づくりや運動」が最も高く、特に18~19歳、20歳代ではそれぞれ42.9パーセント、36.7パーセントと高まっている。50歳代、60歳代になると「趣味に関するもの」の学習をする人が多くなり(それぞれ22.6パーセント、26.7パーセント)、70歳以上では「教養的なもの」の学習が最も高くなっている(2

5.0パーセント)。このほか20歳未満では「資格取得、検定等に関するもの」の学習が35.7パーセントとかなり高くなっている。

この学習内容は職業によってもちがいがみられるのだろうか。表1-3は職業別にみた学習内容を示したものである。これによると、漁業、家事、学生を除いた職業では「体力づくりや運動」が最も比率が高く、中でも事務職、技術職の場合は3割を越えている。また、「趣味に関するもの」の比率も全体的に高い傾向にあるが、事務職、専門職、家事、無職においてはその比率が20パーセントを越えてい

表1-2 年齢別にみた学習内容

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	人間に関するもの	健康に関するもの	管閑に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	生活に関するもの	家庭に関するもの	育児に関するもの	・に 仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・検定に関するもの	取検に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	特に何もしない
18~19歳	21.4	21.4	0	7.1	42.9	0	7.1	0	21.4	35.7	7.1	0	14.3				
20~29歳	9.5	16.0	3.9	3.9	36.7	1.7	10.1	6.4	15.1	13.7	4.2	2.5	28.0				
30~39歳	6.9	14.0	6.2	5.0	28.3	2.4	6.7	9.5	18.5	7.4	2.9	2.9	37.5				
40~49歳	8.4	14.1	6.7	8.0	24.7	4.1	6.9	8.4	12.3	6.3	4.1	3.5	39.8				
50~59歳	11.4	22.6	7.7	12.2	20.1	3.0	9.7	2.2	9.0	3.7	5.7	3.0	39.1				
60~69歳	12.6	26.7	8.5	15.7	20.8	0.9	10.1	1.6	4.4	1.3	9.1	4.4	39.6				
70歳以上	25.0	20.8	7.3	16.7	24.0	2.1	9.4	2.1	3.1	0	6.3	5.2	38.5				

(複数回答)

表1-3 職業別にみた学習内容

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	人間に関するもの	健康に関するもの	管閑に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	生活に関するもの	家庭に関するもの	育児に関するもの	・に 仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・検定に関するもの	取検に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	特に何もしない
農林業	5.7	13.1	8.4	13.4	18.1	1.7	8.4	4.4	9.7	2.7	5.0	5.4	46.0				
漁業※	0	25.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75.0				
自営業	10.6	15.9	9.2	10.1	25.6	2.4	7.2	6.3	11.6	9.2	6.3	3.9	35.3				
技能・作業	5.2	15.7	5.2	7.4	24.5	3.5	4.4	3.1	10.5	10.5	4.4	3.5	44.5				
事務職	10.4	23.4	5.4	6.0	37.1	3.8	8.2	4.4	15.8	7.6	4.6	1.6	27.5				
技術職	7.5	7.5	4.7	5.7	31.1	0	1.9	5.7	22.6	12.3	6.6	3.8	40.6				
専門職	20.1	26.6	7.1	8.9	31.4	3.6	4.7	16.0	24.3	4.1	2.4	1.2	18.3				
パートタイマー	8.7	11.3	1.7	8.7	25.2	1.7	15.7	5.2	7.0	2.6	1.7	2.6	48.7				
家事	9.9	23.9	5.3	8.8	20.8	1.8	16.5	7.7	3.2	1.4	5.6	2.1	40.8				
学生	33.3	5.6	16.7	11.1	5.6	5.6	0	0	44.4	38.9	11.1	0	11.1				
無職	19.3	22.2	8.9	14.8	23.7	1.5	11.1	3.0	3.0	2.2	8.1	5.2	36.3				
その他	9.2	15.1	7.6	6.7	26.1	1.7	4.2	2.5	10.1	12.6	5.0	5.9	38.7				

※母数の実数は4
(複数回答)

る。「家庭生活に関するもの」の比率が高いのはパートタイマー、家事、「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」では技術職、専門職、学生・大学院生などで高い比率になっている。

最後に地域別に学習内容をみると（表1-4）、都市部、農漁村部、山村部ともに「体力づくりや運動」をしている人が最も高く、次いで「趣味に関するもの」の比率が高い。この「趣味に関するもの」の学習では地域別にちがいがみられ、山村部で高く、農漁村部で低くなっているのがわかる。

なお、学習をしている人は必ずしも1つの

ことだけを学習しているとは限らない。以下の表1-5から表1-7は、これまでみてきた実際に行っている学習の内容のうち、最も関心をもっている学習内容を性別、年齢別、職業別に表わしたものである。これについては、比率の高い順に学習内容をみると性別、年齢別、職業別ともにこれまでみてきたものとはほぼ同じ傾向で、全体では「体力づくりや運動」、「趣味に関するもの」、「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」が高くなっている。以下、この最も関心をもっている学習内容に関して詳しくみていくことにする。

表1-4 地域別にみた学習内容

(%)

	教養的 なもの	趣味に 関する もの	社会問 題に関 するも の	健康に 関する もの	管 理に 関する もの	体力づ くりや 運動	福祉活 動に関 するも の	家庭生 活に関 するも の	育児・ 教育に 関する もの	仕事に役 立つ知識・ 技能に関 するもの	資格・等 定関する もの	取 検に 関する もの	ボラン ティア 活動に 関する もの	その他	特に何 もして いない
都市部	9.9	18.0	6.5	9.3	26.2	1.2	7.3	6.5	13.2	7.2	5.2	3.1	37.7		
農漁村部	8.4	15.8	7.7	8.2	25.3	2.5	9.1	5.5	11.1	6.0	4.9	2.8	40.8		
山村部	14.4	23.1	4.8	10.1	26.8	5.3	10.1	4.3	10.1	5.3	5.0	4.3	29.5		

(複数回答)

表1-5 性別にみた最も関心をもっている学習内容

(%)

	教養的 なもの	趣味に 関する もの	社会問 題に関 するも の	健康に 関する もの	管 理に 関する もの	体力づ くりや 運動	福祉活 動に関 するも の	家庭生 活に関 するも の	育児・ 教育に 関する もの	仕事に役 立つ知識・ 技能に関 するもの	資格・等 定関する もの	取 検に 関する もの	ボラン ティア 活動に 関する もの	その他	無記入	計
全体	8.3	15.9	4.0	5.5	22.6	2.4	4.4	4.2	9.3	5.3	3.3	2.5	12.3	100.0		
男	8.6	12.9	5.6	5.5	25.2	1.4	0.3	2.1	13.8	6.7	2.7	2.6	12.6	100.0		
女	8.0	18.7	2.5	5.5	20.0	3.4	8.3	6.3	5.0	3.9	3.9	2.5	12.0	100.0		

表1-6 年齢別にみた最も関心をもっている学習内容

(%)

	教養的 なもの	趣味に 関する もの	社会問 題に関 するも の	健康に 関する もの	管 理に 関する もの	体力づ くりや 運動	福祉活 動に関 するも の	家庭生 活に関 するも の	育児・ 教育に 関する もの	仕事に役 立つ知識・ 技能に関 するもの	資格・等 定関する もの	取 検に 関する もの	ボラン ティア 活動に 関する もの	その他	無記入	計
18~19歳	8.3	8.3	0	0	33.4	0	8.3	0	8.3	16.8	8.3	0	8.3	100.0		
20~29歳	7.7	12.3	1.5	1.9	33.4	1.5	4.6	4.6	8.8	11.5	3.4	1.1	7.7	100.0		
30~39歳	6.3	10.0	3.0	3.0	29.0	1.9	3.7	8.2	14.9	6.3	1.9	3.0	8.8	100.0		
40~49歳	5.9	13.6	4.5	5.6	18.5	4.5	5.2	5.6	12.9	4.9	3.1	2.4	13.3	100.0		
50~59歳	8.7	20.7	7.1	9.1	15.0	2.4	5.1	2.8	6.3	2.8	4.7	3.1	12.2	100.0		
60~69歳	9.6	25.5	4.3	8.6	14.8	1.0	3.8	0	3.3	1.4	3.8	3.8	20.1	100.0		
70歳以上	22.9	13.6	3.0	6.1	21.2	3.0	3.0	0	1.5	0	1.5	3.0	21.2	100.0		

表1-7 職業別にみた最も関心をもっている学習内容

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会問題に関するもの	健康管理に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	家庭生活に関するもの	育児・教育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格取得・検定に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	無記入	計
農 林 業	4.8	15.4	6.5	8.3	16.7	1.2	4.2	4.2	11.3	1.8	4.2	6.5	14.9	100.0
漁 業 ※	0	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0
自 営 業	7.9	12.8	5.7	7.1	17.9	2.9	2.9	4.3	9.3	7.1	4.3	2.9	14.9	100.0
技能・作業職	3.0	11.4	3.0	5.3	25.7	3.8	3.8	2.3	8.3	11.4	2.3	3.0	16.7	100.0
事務職	6.2	18.2	2.2	4.0	29.6	3.3	2.9	4.4	8.8	5.1	4.4	0.7	10.2	100.0
技能・作業職	7.6	6.1	3.0	3.0	25.7	0	0	6.1	19.7	7.6	1.5	4.5	15.2	100.0
専 門 職	12.1	19.2	2.8	3.5	22.8	2.1	1.4	7.8	17.7	4.3	1.4	1.4	3.5	100.0
パートタイマー	6.3	7.8	0	6.3	29.5	1.6	14.1	4.7	7.8	3.1	1.6	3.1	14.1	100.0
家 事	11.0	23.3	4.1	7.0	15.7	2.3	10.5	5.2	2.3	1.7	4.1	0.6	12.2	100.0
学 生	12.5	6.3	12.5	0	0	0	0	0	25.0	25.0	12.5	0	6.2	100.0
無 職	12.9	21.4	4.3	6.5	20.3	1.1	5.4	0	2.2	2.2	1.1	4.3	18.3	100.0
そ の 他	13.0	9.1	7.8	2.6	26.0	2.6	3.9	1.2	5.2	10.4	2.6	3.9	11.7	100.0

※母数の実数は1

表1-8 性別にみた学習の目的

(%)

	職業に必要な知識や技術を高めるため	学習や活動の楽しみを得るため	必要な資格を得るため	働くほかに生きがいを持つため	地域の人々の役に立つため	新しい友人を得て人間関係を広げるため	そ の 他	無 記 入	計
全 体	18.4	17.2	3.3	24.4	6.8	13.8	11.3	4.8	100.0
男	24.9	12.9	2.7	23.4	8.3	12.6	10.2	5.0	100.0
女	12.2	21.3	3.8	25.4	5.2	15.0	12.4	4.7	100.0

(2) 学習の目的

表1-8は、最も関心をもっている学習内容について、その目的を性別に表わしたものである。全体では、「働くほかに生きがいを持つため」が最も多い(24.4パーセント)。次に、「職業に必要な知識や技術を高めるため」が18.4パーセント、「学習や活動の楽しみを得るため」が18.4パーセントの順になっている。性別にみると、男性で最も高いのは「職業に必要な知識や技術を高めるため」(24.9パーセント)で、以下「働くほかに生きがいを持つため」(23.4パーセント)、「学習や活動の楽しみを得るため」(12.9パーセント)になっている。一方、女性の場合は、最も高いのは「働くほかに生きがいを持つため」(25.4パーセント)であるが、第2位が「学習や活動の楽しみを得るため」(21.3パーセント)、第3位が「新しい友人を得て人間関係を広げる」(15.0パーセント)となっている。

学習の目的を年齢別にみると(表1-9)、20歳未満では「学習や活動の楽しみを得るため」、「働くほかに生きがいを持つため」がともに25.0パーセントで最も高くなっている。20歳代、30歳代になると「職業に必要な知識や技術を高めるため」が高くなっている。さらに、40歳代以降になると「働くほかに生きがいを持つため」が最も高くなり、特にこの比率は50歳代、60歳代では30パーセントを越えている。

さらに、学習の目的を職業別にみると(表1-10)、農林業、自営業、技能・作業職、事務職、パートタイマーでは「働くほかに生き

宮崎県民の生涯学習

がいを持つため」が最も多くなっている。また、技術職、専門職、学生の場合は「職業に必要な知識や技術を高めるため」、家事および無職では「新しい友人を得て人間関係を広げる」がそれぞれで最も高い比率になっている。また、学習の目的を地域別にみた場合は（表1-11）、都市部と農漁村部では「職業に必要

な知識や技術を高めるため」や「働くほかに生きがいを持つため」が高くなっているが、山村部では最も比率の高い「働くほかに生きがいを持つため」（31.7パーセント）に次いで「学習や活動の楽しみを得るため」（21.3パーセント）が高くなっている。

表1-9 年齢別にみた学習目的

(%)

	職業に必要な知識や技術を高めるため	学習や活動の楽しみを得るため	必要な資格を得るため	働くほかに生きがいを持つため	地域の人々の役に立つため	新しい友人を得て人間関係を広げるため	その他	無記入	計
18～19歳	8.3	25.0	8.3	25.0	0	8.3	16.8	8.3	100.0
20～29歳	21.1	18.0	7.7	16.9	1.8	17.2	14.6	2.7	100.0
30～39歳	25.7	15.6	3.3	17.5	5.2	13.0	15.6	4.1	100.0
40～49歳	24.4	16.0	3.1	25.2	7.7	9.8	9.6	4.2	100.0
50～59歳	15.4	18.5	0.8	31.6	9.8	9.8	10.2	3.9	100.0
60～69歳	6.2	17.2	1.9	31.1	10.0	19.1	4.9	9.6	100.0
70歳以上	3.0	18.2	0	28.8	7.6	22.7	9.1	10.6	100.0

表1-10 職業別にみた学習目的

(%)

	職業に必要な知識や技術を高めるため	学習や活動の楽しみを得るため	必要な資格を得るため	働くほかに生きがいを持つため	地域の人々の役に立つため	新しい友人を得て人間関係を広げるため	その他	無記入	計
農 林 業	19.0	10.7	2.4	32.2	10.1	12.5	8.9	4.2	100.0
漁 業 ※	0	0	0	0	0	0	100.0	0	100.0
自 営 業	18.6	12.9	2.0	24.3	10.0	15.0	9.3	7.9	100.0
技能・作業職	19.0	14.4	7.6	25.7	4.5	15.2	6.8	6.8	100.0
事務職	14.6	18.6	4.0	27.1	5.1	13.1	15.7	1.8	100.0
技術職	39.4	9.1	1.5	19.8	1.5	10.6	13.6	4.5	100.0
専門職	36.2	22.0	2.1	17.7	4.3	9.2	6.4	2.1	100.0
パートタイマー	14.1	10.9	1.6	35.9	6.3	10.9	10.9	9.4	100.0
家事	5.8	29.1	1.6	19.2	7.6	19.8	12.8	4.1	100.0
学 生	62.3	0	6.3	6.3	0	6.3	12.5	6.3	100.0
無 職	5.4	20.4	1.0	16.1	9.7	22.6	15.1	9.7	100.0
その他	18.2	14.3	7.8	27.3	7.8	9.1	9.1	6.4	100.0

※母数の実数は1

表1-11 地域別にみた学習目的

(%)

	職業に必要な知識や技術を高めるため	学習や活動の楽しみを得るため	必要な資格を得るため	働くほかに生きがいを持つため	地域の人々の役に立つため	新しい友人を得て人間関係を広げるため	その他	無記入	計
都 市 部	21.7	16.7	4.3	20.8	5.7	13.5	12.0	5.3	100.0
農 漁 村 部	18.1	14.9	2.6	23.7	8.4	13.8	12.4	6.1	100.0
山 村 部	12.4	21.3	2.2	31.7	6.7	14.9	7.9	2.9	100.0

(3) 学習の方法

では、これらの学習はどのような方法で行われているのだろうか。図1-1は性別でみた学習の方法である。まず全体では、「同好のサークルやグループ活動などで」学習している人が33.0パーセントで最も多い。次に多いのが「個人で本を利用して」(29.3パーセント)、「県、市町村、公民館などの講座や行事」(22.0パーセント)という順になっている。これを性別にみると、上位の3つの項目は全体の状

況と変わらないが、男性で最も多い学習の方法は「個人で本を利用して」で38.9パーセント、第2位が「同好のサークルやグループ活動などで」(34.0パーセント)、第3位が「県、市町村、公民館などの講座や行事」(18.6パーセント)である。女性の場合は、「同好のサークルやグループ活動などで」が32.0パーセントで最も高く、第2位、第3位は「県、市町村、公民館などの講座や行事」、「個人で本を利用して」であり、ともに2割台である。

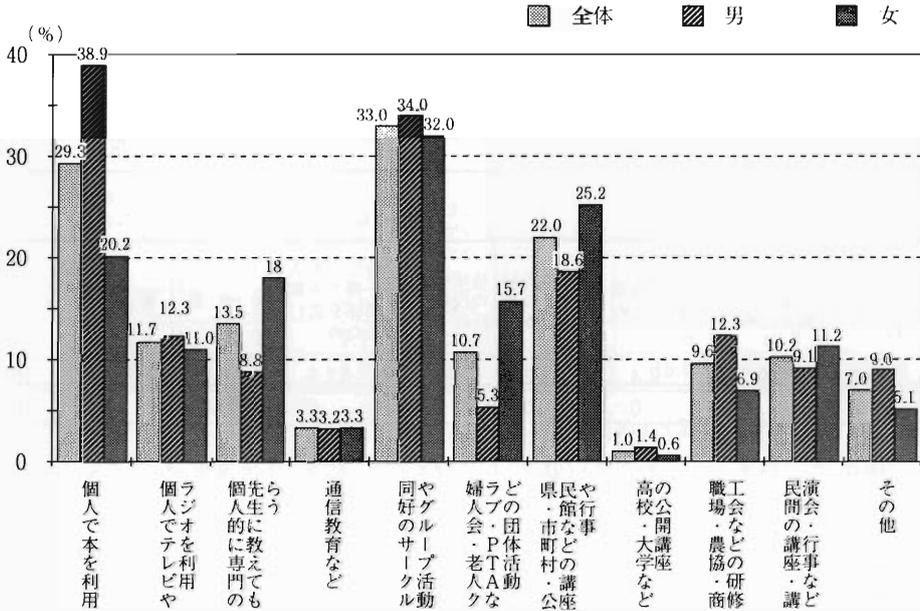


図1-1 性別にみた学習方法

学習の方法を年齢別にみると(表1-12)、18~19歳では「個人的に専門の先生に教えてもらって」が最も多いが(41.7パーセント)、20歳代から60歳代までは「同好のサークルやグループ活動」で学習する人が最も多く、中でも20歳代の比率が最も高く38.8パーセントになっている。70歳以上になると「県、市町村、民館などの講座や行事」で学習する人が最も多い(37.7パーセント)。また、「個人で本を利用」については、70歳以上を除けばどの年代も30パーセント前後の値を示している。

最後に地域別に学習の方法をみると(表1-13)、都市部では「個人で本を利用」(36.1パーセント)や「同好のサークルやグループ活動」(30.5パーセント)などが多い。農漁村部では「同好のサークルやグループ活動」(31.0パーセント)が最も多く、3割を越えているのはこれだけである。山村部では「同好のサーク

ルやグループ活動」が特に多く(40.5パーセント)、次いで「県、市町村、公民館などの講座や行事」が多い(33.9パーセント)。

(4) 学習場所

つづいて、これらの学習がどのような場所で行われているのかをみていくことにする。図1-2をみると、全体では「個人の住宅、自宅など」が4割弱で最も多い。次に多いのが「公民館」(26.2パーセント)、「学校以外のスポーツ施設」(21.9パーセント)である。これを性別にみたらどうだろうか。男性の場合も女性の場合も第1位は「個人の住宅、自宅など」である。しかし、第2位、第3位は異なっており、男性では2位が「学校以外のスポーツ施設」(24.8パーセント)、3位が「公民館」(20.9パーセント)であり、女性では2位、3位が「公民館」(31.2パーセント)、「学校以外のスポーツ施設」(19.1パーセント)の

表1-12 年齢別にみた学習方法

(%)

	個人で本を利用	個人でテレビやラジオを利用	個人的に専門の先生に教えてもらう	通信教育など	同好のサークルやグループ活動	婦人会・老人クラブ・PTAなどの団体活動	県・市町村・公民館などの講座や	高校・大学などの開講座	職場・農協・商工会などの研修	民間の講座・講演会・行事など	その他
18~19歳	33.3	8.3	41.7	0	25.0	0	0	25.0	0	0	0
20~29歳	28.6	6.3	14.1	3.5	38.8	2.0	14.5	1.2	9.8	10.6	9.4
30~39歳	32.8	7.3	11.2	5.0	34.0	11.6	15.4	0.4	10.0	10.4	6.9
40~49歳	28.4	9.8	11.3	4.0	29.5	13.1	23.3	1.5	13.5	13.5	5.1
50~59歳	29.0	15.9	15.9	2.0	31.0	9.8	26.1	0	10.6	9.0	8.6
60~69歳	28.0	23.3	16.4	2.1	33.3	15.3	30.7	0.5	3.7	7.4	5.3
70歳以上	24.6	9.8	8.2	0	29.5	23.0	37.7	1.6	3.3	8.2	4.9

(複数回答)

表1-13 地域別にみた学習方法

(%)

	個人で本を利用	個人でテレビやラジオを利用	個人的に専門の先生に教えてもらう	通信教育など	同好のサークルやグループ活動	婦人会・老人クラブ・PTAなどの団体活動	県・市町村・公民館などの講座や	高校・大学などの開講座	職場・農協・商工会などの研修	民間の講座・講演会・行事など	その他
都市部	36.1	12.7	17.1	4.0	30.5	8.4	13.6	1.6	10.6	11.0	7.5
農漁村部	26.3	13.1	11.9	3.1	31.0	12.4	25.1	1.0	9.5	10.5	6.4
山村部	20.4	7.9	9.2	2.0	40.5	12.5	33.9	0	7.2	8.2	6.6

(複数回答)

順で男性の順位と逆になっている。このうち「公民館」を学習場所としている割合は女性の方が男性より10パーセント以上多い。

これを年齢別にみると（表1-14）、60歳代以外の年代では「個人の住宅、自宅など」が最も多くなっている。60歳代で最も多い学習場所は「公民館」（47.6パーセント）である。この「公民館」は、30歳代以前では15パーセントにも満たないが、40歳代で30パーセント弱、50歳代で40パーセント弱になり、60歳代まで増加している。また、「学校以外のスポーツ施設」は20歳代から40歳代までは20～30パーセントであるが、それ以降60歳代までは10パーセント台にとどまり、70歳以上になると再び

比率が上昇しているのがわかる。

また、地域別では（表1-15）、都市部においては最も多いのが「個人の住宅、自宅など」（44.5パーセント）であり、2番目に多い「学校以外のスポーツ施設」（20.1パーセント）の2倍以上である。農漁村部では都市部と同様に「個人の住宅、自宅など」が最も多く（38.0パーセント）、山村部では「公民館」が35.9パーセントで最も多い。学習場所は学習の内容によってもちがいがあろうか。表1-16は学習内容別の学習場所を表したものである。これをみると、教養、趣味、健康管理、家庭生活、育児・教育、仕事に役立つ知識・技能、資格取得・検定に関する学習は「個人の住宅、

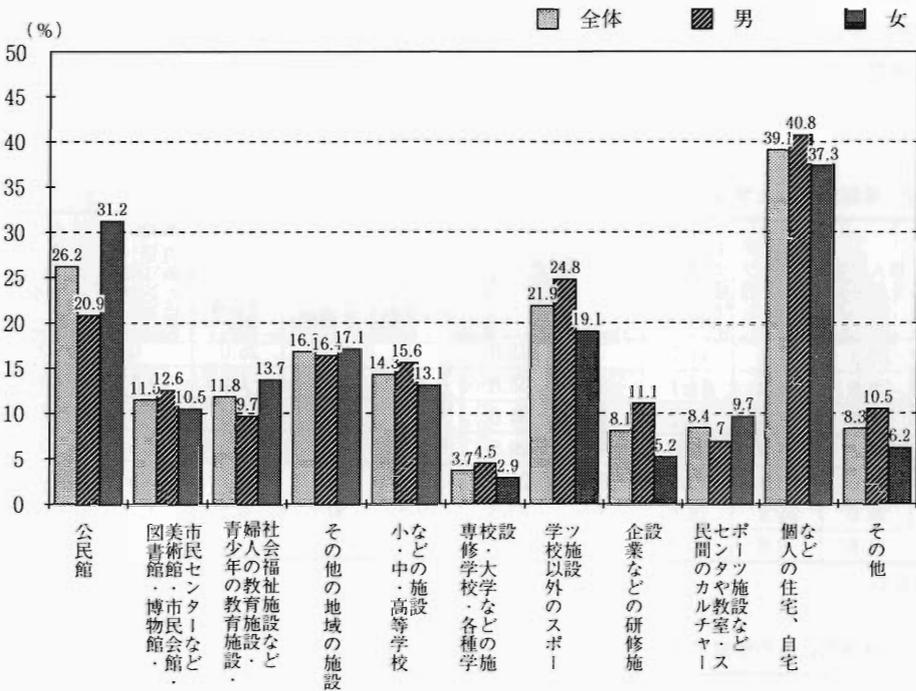


図1-2 性別にみた学習場所

宮崎県民の生涯学習

自宅など」で行っている人が最も多い。ただし、教養に関する学習の場合は、「公民館」や「図書館や博物館、美術館、市民会館、文化センターなど」を利用している人も「個人の住

宅、自宅」と同じく30パーセントを越えている。また、社会問題やボランティア活動などの学習では「公民館」を利用する人が最も多い。

表1-14 年齢別にみた学習場所

(%)

	公民館	図書館・博物館・美術館・市民会館文化センターなど	青少年の教育施設 婦人の教育施設、社会福祉施設など	その他の地域の施設 (集会所、コミュニティセンターなど)	小・中・高等学校などの施設	専修学校各種学校大学の施設	学校以外のスポーツ施設 (体育館、運動公園・プールなど)	企業などの研修施設	民間のカルチャーセンターや教室、スポーツ施設など	個人の住宅、自宅など	その他
18～19歳	8.3	16.7	0	8.3	25.0	8.3	8.3	0	8.3	33.3	0
20～29歳	8.7	9.9	6.3	7.1	15.5	11.1	30.6	9.9	10.7	38.1	6.7
30～39歳	14.9	12.5	8.2	14.1	22.4	2.7	26.3	9.8	8.2	37.6	7.8
40～49歳	29.2	9.6	11.4	18.1	16.2	1.8	21.8	10.3	5.2	38.0	7.4
50～59歳	38.2	11.6	14.9	19.9	10.8	1.2	14.5	7.1	7.9	43.2	10.4
60～69歳	47.6	11.9	18.9	25.9	3.8	1.1	14.1	3.8	8.1	41.1	11.4
70歳以上	25.9	20.7	19.0	22.4	8.6	1.7	24.1	1.7	15.5	34.5	5.2

(複数回答)

表1-15 地域別にみた学習場所

(%)

	公民館	図書館・博物館・美術館・市民会館文化センターなど	青少年の教育施設 婦人の教育施設、社会福祉施設など	その他の地域の施設 (集会所、コミュニティセンターなど)	小・中・高等学校などの施設	専修学校各種学校大学の施設	学校以外のスポーツ施設 (体育館、運動公園・プールなど)	企業などの研修施設	民間のカルチャーセンターや教室、スポーツ施設など	個人の住宅、自宅など	その他
都市部	18.7	12.8	9.6	13.5	13.7	5.5	20.1	9.3	11.4	44.5	8.4
農漁村部	29.7	11.2	13.1	17.0	14.6	3.4	24.1	8.3	7.5	38.0	8.5
山村部	35.9	9.6	14.0	22.3	14.6	0.7	22.3	5.6	3.7	30.9	8.0

(複数回答)

表1-16 学習内容別にみた学習場所

(%)

	公民館	図書館・博物館・美術館・市民会館文化センターなど	青少年の教育施設 婦人の教育施設、社会福祉施設など	その他の地域の施設 (集会所、コミュニティセンターなど)	小・中・高等学校などの施設	専修学校各種学校大学の施設	学校以外のスポーツ施設 (体育館、運動公園・プールなど)	企業などの研修施設	民間のカルチャーセンターや教室、スポーツ施設など	個人の住宅、自宅など	その他
教養的なもの	32.7	30.9	10.0	10.9	8.2	6.4	3.6	2.7	12.7	38.2	9.1
趣味に関するもの	31.7	12.0	9.1	13.9	4.3	1.0	3.4	1.4	12.0	64.4	6.7
社会問題に関するもの	48.1	15.4	26.9	38.5	15.4	5.8	19.2	9.6	1.9	28.8	7.7
健康管理に関するもの	30.1	11.0	20.5	21.9	12.3	0	15.1	6.8	6.8	41.1	13.7
体力づくりや運動	14.2	3.7	3.0	11.8	25.3	2.0	64.9	3.4	12.5	17.9	9.8
福祉活動に関するもの	43.3	16.7	60.0	20.0	0	3.3	6.7	3.3	3.3	16.7	0
家庭生活に関するもの	51.7	5.2	6.9	19.0	5.2	1.7	5.2	0	3.4	55.2	10.3
育児・教育に関するもの	24.6	26.3	8.8	19.3	40.4	3.5	19.3	8.8	5.3	43.9	10.5
仕事に役立つ知識・技能に関するもの	9.0	9.0	6.6	10.7	16.4	6.6	3.3	26.2	5.7	59.8	7.4
資格取得・検定等に関するもの	4.3	15.9	11.6	13.0	7.2	11.6	1.4	27.5	0	53.6	8.7
ボランティアに関するもの	48.9	6.7	46.7	37.8	4.4	4.4	11.1	2.2	0	22.2	8.9
その他	44.1	17.6	8.8	26.5	14.7	2.9	17.6	11.8	5.9	20.6	8.8

(複数回答)

(5) 学習の頻度

さらに、これらの学習がどれくらいの頻度で行われているかをみることにしよう。まず全体的な傾向として（表1-17）、「週1回以上した」が39.4パーセントで最も多い。次いで「月1回以上した」という人が多く（31.4パーセント）、「ほとんど毎日した」も1割強いる。性別にみてもこの傾向は変わらず、「週1回以上した」という比率が女性の方が男性より若干高くなっている。

これを年齢別にみると（表1-18）、18～19歳から40歳代までは「週1回以上した」が最も高く、これらの年代では2番目に多い「月1回以上した」よりも10パーセント以上高くなっている。50歳代と70歳代では「月1回以上した」が、60歳代では「週1回以上した」が最も高いが、それぞれ第2位の「週1回以上した」、「月1回以上した」とあまり差はみられない。

表1-17 性別にみた学習の頻度

(%)

	ほとんど毎日	週1回以上	月1回以上	年に1～2回	無記入	計
全体	11.9	39.4	31.4	12.0	5.3	100.0
男	13.1	35.4	32.2	13.5	5.9	100.0
女	10.8	43.1	30.8	10.5	4.8	100.0

表1-18 年齢別にみた学習の頻度

(%)

	ほとんど毎日	週1回以上	月1回以上	年に1～2回	無記入	計
18～19歳	8.3	66.7	16.7	8.3	0	100.0
20～29歳	17.6	44.9	29.5	5.3	2.7	100.0
30～39歳	10.0	42.4	31.6	12.7	3.3	100.0
40～49歳	9.8	40.0	27.9	16.0	6.3	100.0
50～59歳	9.8	34.6	36.3	15.0	4.3	100.0
60～69歳	11.8	35.0	31.7	11.0	10.5	100.0
70歳以上	13.6	30.3	34.9	10.6	10.6	100.0

表1-19 性別にみた学習目的の充足度

(%)

	十分達成された	ある程度達成された	あまり達成されなかった	全く達成されなかった	無記入	計
全体	17.0	68.3	8.6	0.9	5.2	100.0
男	15.0	70.5	8.0	1.2	5.3	100.0
女	18.9	66.4	9.0	0.6	5.1	100.0

(6) 学習目的の達成度

さて、これまでみてきた学習はどれくらい目的が達成されているのだろうか。表1-19をみると、「十分達成された」が17.0パーセント、「ある程度達成された」が68.3パーセントであり、ほぼ8割5分の人が少なくとも目的はある程度達成されたと感じているといえる。性別にみた場合でも同様であり、「十分達成された」と感じている人が男性より女性の方が

少し多い。

年齢別に学習目的の達成度をみると（表1-20）、18～19歳では「あまり達成されなかった」、「全く達成されなかった」の比率が他の年代に比べて高くなっている（それぞれ16.7パーセント、8.3パーセント）。20歳代以降は「十分達成された」と「ある程度達成された」の比率の合計が80パーセント台後半か90パーセントを越えている。

表1-20 年齢別にみた学習目的の充足度

(%)

	十分達成された	ある程度達成された	あまり達成されなかった	全く達成されなかった	無記入	計
18～19歳	8.3	66.7	16.7	8.3	0	100.0
20～29歳	19.2	67.8	8.8	0.8	3.4	100.0
30～39歳	17.5	69.5	7.4	1.1	4.5	100.0
40～49歳	17.4	66.6	9.8	1.0	5.2	100.0
50～59歳	16.9	69.3	9.1	0.8	3.9	100.0
60～69歳	14.8	69.0	5.7	0	10.5	100.0
70歳以上	10.6	66.7	10.6	1.5	10.6	100.0

(7) 学習に対する充実感

これまでは学習の状況について学習の内容、目的、方法等についてみてきた。しかし、人々はこれまでみてきた学習をすることに対してどれほどの充実感を感じているのだろうか。学習以外の活動と比較しながらみておくことにしよう。

表1-21は性別にみた充実感を感じるときの比率を表したものである。全体では「仕事

をしている時」が最も多くなっている（35.3パーセント）。「趣味の活動をしている時」、「スポーツ活動をしている時」、「いろいろな学習活動をしている時」、「地域活動やボランティア活動をしている時」の中では、「趣味の活動をしている時」が29.9パーセントで最も高く、「スポーツ活動をしている時」が14.9パーセント、「いろいろな学習活動をしている時」、「地域活動やボランティア活動をしている時」が

表1-21 性別にみた充実感を感じる時

(%)

	仕事をしている時	趣味の活動をしている時	スポーツ活動をしている時	いろいろな学習活動をしている時	友達や仲間とあついている時	地域活動やボランティア活動をしている時	家族の時間	子どもたちを育てる時	他人にわざわざひいてい	ゆったりとした休養の時	その他	充実感を感じない時
全体	35.3	29.9	14.9	3.9	24.2	2.9	29.0	16.2	8.5	21.0	1.3	4.2
男	40.9	37.0	17.3	3.7	20.5	3.2	24.9	11.2	7.2	20.3	0.9	4.1
女	30.4	23.6	12.9	4.1	27.6	2.6	32.6	20.5	9.6	21.7	1.6	4.3

(複数回答)

表1-22 年齢別にみた充実感を感じる時

(%)

	仕事をしている時	趣味の活動をしている時	スポーツ活動をしている時	いろいろな学習活動をしている時	友達や仲間とあついている時	地域活動やボランティア活動をしている時	家族の時間	子どもたちを育てる時	他人にわざわざひいてい	ゆったりとした休養の時	その他	充実感を感じない時
18～19歳	14.3	21.4	21.4	7.1	35.7	7.1	7.1	0	0	57.1	0	14.3
20～29歳	20.6	28.4	25.6	1.7	47.6	1.1	19.5	7.5	10.0	23.4	1.1	3.6
30～39歳	26.8	29.7	17.6	1.7	18.1	2.4	39.0	22.3	6.7	21.4	1.2	5.9
40～49歳	37.7	26.7	12.5	2.6	18.8	2.2	37.1	20.9	7.5	21.8	1.3	3.0
50～59歳	45.2	31.9	10.3	5.4	17.7	3.7	24.3	17.4	9.8	20.6	2.5	2.7
60～69歳	48.4	32.8	8.1	7.8	21.6	5.3	24.7	11.3	10.0	15.9	0.3	4.1
70歳以上	30.6	34.7	17.3	10.2	27.6	3.1	17.3	11.2	7.1	19.4	0	10.2

(複数回答)

それぞれ3.9パーセント、2.9パーセントとなっている。性別にみると、男性では「仕事」に充実感を感じている人が最も多いが(40.9パーセント)、「趣味の活動をしている時」をあげている人も37.0パーセントとかなり高いのがわかる。女性の場合、最も充実感を感じるときは「家族だんらんの時」(32.6パーセント)で、それに次いで多いのが「仕事をしている時」(30.4パーセント)であり、「趣味の活動をしている時」(23.6パーセント)は第4位である。

年齢別に充実感をみると(表1-22)、「趣味の活動をしている時」は18~19歳では20パーセント強であるが30歳代まで上昇し、40歳代で一時減少するが、50歳代以降はまた上昇し70歳以上で最も高くなる(34.7パーセント)。「スポーツ活動をしている時」に充実感を感じているのは、20歳代で最も高くなり(25.6パーセント)、それ以降60歳代まで下降し、70歳以上になると再び増加している。

(8) 学習成果とその活用の状況

これまでみてきた実際の学習の成果がどの程度あり、またその成果がどのような形で活用されているのだろうか。ここではこのことについて明らかにすることにしよう。全体では、「自分の人生がより豊かになった」が38.4パーセントで最も多い(表1-23)。次いで「健康増進や体力増進に活かしている」が33.3パーセント、「日常生活や地域で活かしている」

」が28.9パーセントになっている。性別にみると、「自分の人生がより豊かになった」という人は男性(31.0パーセント)よりも女性(45.4パーセント)の方がかなり多い。「健康増進や体力増進に活かしている」という人は男女ともに約3人に1人の割合である。

これは年齢によってもちがいがみられるだろうか。「自分の人生がより豊かになった」と考えている人は18~19歳では41.7パーセントであるが20歳代ではそのほぼ半分になる(表1-24)。その後、この比率は増加していき、60歳代で54.0パーセント、70歳以上で最も高くなり63.3パーセントである。「健康増進や体力増進に活かしている」は、40歳代を除いて30から40パーセント台を示しており、60歳代が最も高い(45.5パーセント)。このほか「日常生活や地域で活かしている」については、20歳代と30歳代以外では3割を越え、また、「さらに広く深い知識や技能を身につけるよう努めている」が20歳代から60歳代までの間で2割を越えている。

さらに、これを職業別にみると(表1-25)、農林業では「日常生活や地域で活かしている」が最も多く42.9パーセント、自営業、技能・作業職、家事、無職では「自分の人生がより豊かになった」と考えている人が最も多い。また技術職、専門職では、最も多いのが「さらに広く深い知識や技能を身につけるよう努めている」である。

表1-23 性別にみた学習成果をその活用状況

(%)

	日常生活や地域での活動に活かしている	資格を取った	自分の仕事や就職に活かしている	健康増進や体力増進に活かしている	他の人の学習活動の指導に活かしている	さらに広く深い知識や技能を身につけるために務めている	自分の人生が豊かになった	その他	特に活かしていない
全体	28.9	7.9	22.1	33.3	6.1	22.6	38.4	3.2	6.0
男	28.5	8.2	28.3	33.9	9.0	24.8	31.0	3.5	5.6
女	29.3	7.6	16.2	32.8	3.4	20.4	45.4	2.9	6.4

(複数回答)

宮崎県民の生涯学習

表1-24 年齢別にみた学習成果とその活用状況

(%)

	日常生活や地域での活動に活かしている	資格を取った	自分の仕事や就職に活かしている	健康増進や体力増進に活かしている	他の人の学習活動の指導に活かしている	さらに広く深い知識や技能を身につけるために務めている	自分の人生が豊かになった	その他	特に活かしていない
18～19歳	33.3	25.0	8.3	41.7	8.3	8.3	41.7	16.7	8.3
20～29歳	22.9	11.1	26.5	32.0	6.7	24.9	22.9	4.0	6.7
30～39歳	27.1	5.8	33.7	30.6	5.4	22.5	32.9	2.3	5.4
40～49歳	30.3	9.9	26.6	24.8	6.9	24.5	39.4	4.4	6.2
50～59歳	31.1	7.0	17.6	36.5	6.1	22.5	41.0	1.6	7.0
60～69歳	32.3	4.8	6.3	45.5	5.3	20.1	54.0	2.6	4.8
70歳以上	31.7	6.7	1.7	38.3	3.3	15.0	63.3	3.3	5.0

(複数回答)

表1-25 職業別にみた学習成果とその活用状況

(%)

	日常生活や地域での活動に活かしている	資格を取った	自分の仕事や就職に活かしている	健康増進や体力増進に活かしている	他の人の学習活動の指導に活かしている	さらに広く深い知識や技能を身につけるために務めている	自分の人生が豊かになった	その他	特に活かしていない
農 林 業	42.9	3.8	17.9	34.6	2.6	18.6	39.7	1.9	4.5
漁 業 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0
自 営 業	27.5	8.4	23.7	32.1	4.6	25.2	44.3	2.3	3.8
技能・作業職	23.0	13.9	26.2	32.8	4.1	26.2	35.2	2.5	4.9
事務職	27.3	8.5	21.4	34.3	7.7	21.8	29.5	4.8	9.2
技術職	17.5	6.3	44.4	33.3	7.9	25.4	27.0	3.2	1.6
専門職	22.5	8.7	44.2	22.5	10.1	21.7	34.1	1.4	5.1
パートタイマー	36.2	3.4	13.8	43.1	1.7	15.5	43.1	3.4	3.4
家事	32.7	3.6	3.6	38.2	3.0	23.0	53.9	3.0	4.8
学 生	6.7	33.3	33.3	6.7	26.7	53.3	20.0	6.7	0
無 職	27.9	9.3	2.3	41.9	11.6	17.4	54.7	7.0	4.7
その他	29.2	11.1	27.8	30.6	2.8	26.4	31.9	1.4	13.9

※母数の実数は1

(複数回答)

2 学習希望の様相

－希望する学習内容に限定して－

さらに、県民がどのような学習希望をもっているかを明らかにすることにしよう。学習希望といった場合は、学習内容、学習方法、学習場所等の希望があるが、ここではさしあたって学習内容の希望について明らかにすることにする。表2-1は性別にみた新しく始めたい学習活動の内容を表わしたものである。全体では、「今やっている活動を続けたい」が22.3パーセントで、約5人に1人が現在の学

習を今後も続けたいと考えていることになる。今後、新たに始めたい学習内容では「体力づくりや運動」が最も多く24.7パーセントである。次いで「趣味に関するもの」(20.7パーセント)、「仕事に役立つ知識・技術に関するもの」(19.7パーセント)となっている。

性別にみると、男性では最も多いのは「体力づくりや運動」(27.4パーセント)で、第2位は「仕事に役立つ知識・技術に関するもの」(24.0パーセント)、第3位は「趣味に関するもの」(21.9パーセント)になっている。一方、

女性では、第1位は「体力づくりや運動」(22.5パーセント)で男性の場合と同じだが、次いで「家庭生活に関するもの」(21.1パーセント)、「趣味に関するもの」(19.7パーセント)の順になっている。

これを年齢別にみると(表2-2)、「体力づくりや運動」は18~19歳で最も高く(38.5パーセント)、20歳代、30歳代になると若干低くなるが40歳代で再び30パーセント台になっている。その後これは60歳代まで減少するが70歳以上で20パーセントに上昇している。「趣味に関するもの」では、18~19歳代では30.8パーセントと最も高く、20歳代、30歳代では10パーセント台になるが、40歳代から60歳代までは20パーセントを越えている。「仕事に役

立つ知識・技能に関するもの」は18~19歳代では低いが、その後上昇し30歳代で最も高くなっている(30.6パーセント)。これはそれ以降徐々に減少する傾向にある。また、「健康管理に関するもの」は、18~19歳代を除けば年齢が上がるにつれて比率が高くなっている。

また、新しく始めたい学習を職業別に表わしたのが表2-3である。「体力づくりや運動」の比率が最も高いのは自営業、技能・作業職、事務職、技術職などであり、とくに技術職では30パーセントを越えている。このほか農林業で最も多いのは「健康管理に関するもの」(25.1パーセント)、専門職、無職では「趣味に関するもの」、パートタイマーや家事では「家庭生活に関するもの」が最も高い。

表2-1 性別にみた新しく始めたい学習内容

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会問題に関するもの	健康管理に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	家庭生活に関するもの	育児・教育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格取得等に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	今やっている活動が続きたい	したいと思わない
全体	9.8	20.7	5.9	16.0	24.7	7.0	12.2	4.4	19.7	9.6	7.9	1.2	22.3	9.0
男	12.3	21.9	8.0	14.0	27.4	2.9	2.0	2.4	24.0	13.8	6.2	1.1	20.0	10.1
女	7.6	19.7	4.1	17.8	22.5	10.6	21.1	6.1	15.9	6.0	9.4	1.2	24.3	8.1

(複数回答)

表2-2 年齢別にみた新しく始めたい学習内容

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会問題に関するもの	健康管理に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	家庭生活に関するもの	育児・教育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格取得等に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他	今やっている活動が続きたい	したいと思わない
18~19歳	7.7	30.8	0	15.4	38.5	0	23.1	7.7	7.7	15.4	0	0	23.1	0
20~29歳	7.7	15.1	3.7	6.0	25.4	8.0	15.4	10.0	23.1	17.9	2.0	0.6	22.8	8.3
30~39歳	9.0	18.7	4.1	8.5	24.8	9.2	11.4	7.3	30.6	15.8	4.9	0.7	18.9	7.0
40~49歳	10.2	21.6	6.2	13.6	30.7	7.8	11.4	1.8	20.5	9.4	9.8	2.4	18.9	7.3
50~59歳	9.9	25.3	6.8	20.9	25.1	7.0	10.2	1.0	15.1	4.2	11.2	0.8	25.1	8.4
60~69歳	10.5	24.3	8.4	32.1	14.9	3.0	15.2	2.0	8.8	0.7	13.5	0.7	26.0	13.2
70歳以上	18.8	12.9	9.4	28.2	20.0	2.4	5.9	1.2	5.9	0	3.5	2.4	30.6	23.5

(複数回答)

表2-3 職業別にみた新しく始めたい学習内容

(%)

	教養的 なもの	趣味に 関する もの	社会問 題に関 するも の	健康管 理する もの	体力づ くりや 運動	福祉活 動に関 するも の	家庭生 活に関 するも の	育児・ 教育に 関する もの	仕事に 立つ知 識・技 能に関 するも の	資格取 得・検 定に関 するも の	ボラン ティア 活動に 関する もの	その他	今やっ ている 活動を 続けたい	したい と思わ ない
農林業	9.1	15.6	5.8	25.1	18.2	4.0	9.5	1.8	22.2	6.9	7.3	1.8	17.5	16.7
漁業※	0	25.0	0	0	0	0	0	0	75.0	0	0	0	0	25.0
自営業	10.9	14.6	13.0	19.3	29.2	6.3	8.3	5.2	18.8	6.3	8.3	1.6	26.0	5.2
技能・作業職	4.5	20.1	4.9	10.7	26.8	6.3	12.1	4.0	21.0	17.9	5.4	1.8	14.7	13.4
事務職	11.4	26.4	4.4	10.8	28.3	6.7	11.9	3.9	25.0	13.3	6.9	0.3	20.6	4.7
技能・作業職	14.0	15.0	4.7	9.3	32.7	8.4	3.7	1.9	27.1	22.4	3.7	2.8	16.8	5.6
専門職	16.0	31.4	3.6	7.7	29.6	5.9	8.3	5.9	18.3	5.3	5.3	0.6	30.8	2.4
パート/フリー	7.1	17.7	4.4	15.9	25.7	11.5	25.7	7.1	14.2	3.5	17.7	0.9	19.5	7.1
家事	6.5	17.8	3.3	21.0	18.5	9.4	21.7	8.0	12.3	5.4	9.8	1.4	29.3	10.5
学生	11.8	11.8	11.8	5.9	23.5	23.5	0	5.9	17.6	23.5	5.9	0	29.4	5.9
無職	16.0	27.4	8.8	25.6	17.6	2.4	12.8	2.4	4.8	1.6	9.6	0.8	24.0	15.2
その他	6.3	18.9	8.1	12.6	23.4	10.8	7.2	1.8	28.8	10.8	8.1	0	23.4	9.0

※母数の実数は4
(複数回答)

3 学習希望の充足状況

ここでは、県民の学習希望がどの程度達成されているかを明らかにする。一般に、学習は学習希望があって行われるものであるといえる。したがって、学習が希望していたとおり行われたときに希望が充足されたといえることができる。つまり、学習希望と実際の学習の差をみることによって、希望がどの程度充足されたかを明らかにできることになる。ここで、学習希望の充足の状況を明らかにすることは、今後、県や市町村がどのような内容の学習機会を提供するかという施策の立案の一助となるだろう。

では、これまでにみてきた結果を利用して学習希望と実際の学習の差を明らかにすることにしよう。学習希望といった場合、それには今後新しく内容の学習を始めたいというものと、これまで行ってきた学習を今後も続けていきたいという2つがある。ここではこの2者をあわせて希望する学習内容と呼ぶことにする。すでに表2-1、2-2において性別および年齢別にみた新しく始めたい学習内容を示したが、そこでは、この2者(「教養的な

もの」など13の新しく始めたい内容と「今やっている活動を活動を続けたい」)が別々のカテゴリーに分けられているので、これを希望する学習内容として統合する必要がある。

そのためには、表2-1、2-2で「今やっている活動を続けたい」とした人が現在どのような内容の学習をしているかを明らかにし、そのそれぞれの学習内容の比率を今後新しく始めたい学習内容の比率に加えなければならない。

そこで、性別、年齢別に「今やっている活動を続けたい」とした人が現在どのような内容の学習をしているかを表わしたのが表3-1である²⁾。たとえば全体と「教養的なもの」の交差するところの2.6パーセントというのは、「今やっている活動を続けたい」という人のうち、現在「教養的なもの」の学習をしている人の比率が学習希望者全体のうちで2.6パーセントいることを意味している。別の言い方をすれば、この2.6パーセントとは、表2-1の全体の列の「今やっている活動を続けたい」の22.3パーセントのうち、2.6パーセントの人が現在「教養的なもの」の学習をしていると

ということである。さらに付け加えるとすれば、表3-1の数値は、表2-1と表2-2にある「今やっている活動を続けたい」という人々の現在の学習の内容の内訳ということになる。したがって、表3-1のそれぞれの数値を表2-1、表2-2のそれぞれの学習の内容の比率に加えることで、前述の2者を含んだ希望する学習内容の比率を求めることができる³⁾。表3-2はその結果で、性別および年齢別にみた希望する学習の内容を表わしている。

では、この学習希望と実際の学習にはどのような差がみられるだろうか。希望する学習内容(表3-2)と実際の学習の内容(表1-1および表1-2)の比率差をみることにしよう。表3-3は、性別および年齢別にみた希望する学習活動の内容と実際の学習内容の比率の差を表わしている。たとえば、全体の列の「教養的なもの」の欄の1.9とは、表3-2の同じ欄の12.4から表1-1の全体と「教養的なもの」の欄の10.5を引いて求めたものである。これは、「教養的なもの」の学習を希望している人が全体の12.4パーセントいるが、実際にその学習をしている人は10.5パーセン

トであり、全体の1.9パーセントの人が希望はありながら何らかの理由で「教養的なもの」の学習ができていないということを意味している。

具体的にどのような学習内容で希望と現状とに差がみられるだろうか。まず、全体では「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」が最も大きく10.1パーセントである。これに次いで「健康管理に関するもの」や「趣味に関するもの」も7パーセント台であり、これらの内容の学習を希望しながら実際にできていない人が多いということになる。一方、比率差がマイナスである「育児・教育に関するもの」の学習は希望通り行われているということになる。これを性別にみると、男性では最も差が大きいのは「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」(10.1パーセント)で、次が「趣味に関するもの」(8.0パーセント)である。女性の場合は若干ちがっており、「健康管理に関するもの」が最も差が大きく10.8パーセントである。次に大きいのが「家庭生活に関するもの」(8.0パーセント)、「福祉活動に関するもの」(7.7パーセント)の順である。

さらに年齢別にみると、どの年代にもプラ

表3-1 性別および年齢別にみた「今やっている活動を続けたい」という人の現在行っている学習の内容(最も関心をもっている学習内容)

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	健康に関するもの	管見に関するもの	体力づくりや運動	福祉活動に関するもの	家庭生活に関するもの	育児・教育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・検定に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他
全体	2.6	4.8	0.7	0.8	5.2	0.7	1.2	0.5	2.3	0.6	0.5	0.9	
男	2.3	2.9	1.0	0.8	5.6	0.3	0	0.2	3.6	0.5	0.3	0.8	
女	2.9	6.3	0.4	0.9	4.7	0.9	2.1	0.8	1.2	0.6	0.7	0.9	
18~19歳	0	7.7	0	0	7.7	0	0	0	7.7	0	0	0	
20~29歳	2.0	2.6	0.3	0	8.5	0.6	0.6	0.3	4.0	1.1	0.6	0.3	
30~39歳	1.0	1.9	0.7	0.7	6.8	0	0.7	1.0	3.4	0.7	0.2	1.0	
40~49歳	1.8	4.2	0.4	0.2	3.1	1.6	1.1	0.7	2.2	0.7	0.7	0.7	
50~59歳	3.4	6.5	1.3	1.6	4.4	0.8	1.8	0.5	1.0	0.3	0.8	0.8	
60~69歳	3.7	8.8	0.7	1.7	3.0	0	2.0	0	0.7	0.3	0.3	0.7	
70歳以上	10.5	7.1	0	1.2	4.7	1.2	0	0	1.2	0	0	1.2	

宮崎県民の生涯学習

スの差がみられるのは「健康管理に関するもの」で、20歳代から40歳代までは比較的差は小さいが50歳代を過ぎると10パーセント以上の差がみられ、60歳代で18.1パーセントと最も大きくなっている。そのほかの学習内容についてみると、年代によって差がみられるのものが多く、「仕事に役立つ知識・技能に関するもの」は18～19歳ではマイナスであるが、30歳代で15.5パーセント、40歳代で10.4パーセ

ントと差が大きくなっている。「体力づくりや運動」については20歳代や60歳代では希望が充足されているといえるが、40歳代、50歳代では9パーセント台にもなっている。また、「趣味に関するもの」では、18～19歳で最も差が大きく(17.1パーセント)、このほか40歳代、50歳代でも大きいですが、70歳以上になると反対にマイナスの値になっている。

表3-2 性別および年齢別にみた希望する学習内容

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	健康に関するもの	管理に関するもの	体力づくりや運動	福祉に関するもの	生活に関するもの	家庭に関するもの	生児育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・等に関するもの	取検に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他
全体	12.4	25.5	6.6	16.8	29.9	7.7	14.4	4.9	22.0	10.2	10.2	8.4	1.7		
男	14.6	24.8	9.0	14.8	33.0	3.2	2.0	2.6	27.6	14.3	6.5	1.9			
女	10.5	26.0	4.5	18.7	27.2	11.5	23.2	6.9	17.1	6.6	10.1	2.1			
18～19歳	7.7	38.5	0	15.4	46.2	0	23.1	7.7	15.4	15.4	0	0			
20～29歳	9.7	17.8	4.0	6.0	33.9	8.6	16.0	10.3	21.9	19.0	2.6	0.9			
30～39歳	10.0	20.6	4.8	9.2	31.6	9.2	12.1	8.3	34.0	16.5	5.1	1.7			
40～49歳	12.0	25.8	6.6	13.8	33.8	9.4	12.5	2.5	22.7	10.1	10.5	3.1			
50～59歳	13.3	31.8	8.1	22.5	29.5	7.8	12.0	1.5	16.1	4.5	12.0	1.6			
60～69歳	14.2	33.1	9.1	33.8	17.9	3.0	17.2	2.0	9.5	1.0	13.8	1.4			
70歳以上	29.3	20.0	9.4	29.4	24.7	3.6	5.9	1.2	7.1	0	3.5	3.6			

表3-3 性別および年齢別にみた希望する学習内容と実際の学習内容の比率差

(%)

	教養的なもの	趣味に関するもの	社会に関するもの	健康に関するもの	管理に関するもの	体力づくりや運動	福祉に関するもの	生活に関するもの	家庭に関するもの	生児育に関するもの	仕事に役立つ知識・技能に関するもの	資格・等に関するもの	取検に関するもの	ボランティア活動に関するもの	その他
全体	1.9	7.0	0.1	7.8	3.8	5.2	5.9	-0.8	10.1	3.8	3.3	-1.5			
男	2.8	8.0	0.3	4.5	2.9	2.2	-1.4	-1.2	10.1	5.2	1.0	-1.6			
女	1.2	6.1	-0.1	10.8	4.6	7.7	8.0	-0.3	10.1	2.7	5.4	-0.7			
18～19歳	-13.7	17.1	0	8.3	3.3	0	16.0	7.7	-6.0	-20.3	-7.1	0			
20～29歳	0.2	1.8	0.1	2.1	-2.8	6.9	5.9	3.9	5.7	5.3	-1.6	-1.6			
30～39歳	3.1	6.6	-1.4	4.2	3.3	6.8	5.4	-1.2	15.5	9.1	2.2	-1.2			
40～49歳	3.6	11.7	-0.1	5.8	9.1	5.3	5.6	-5.9	10.4	3.8	2.8	-0.4			
50～59歳	1.9	9.2	-6.3	10.3	9.4	4.8	2.3	-0.7	7.1	0.8	6.3	-1.4			
60～69歳	1.6	6.4	-0.6	18.1	-2.2	0	7.5	-0.2	0.5	-2.7	5.9	-1.6			
70歳以上	4.3	-0.8	2.1	12.7	0.7	1.5	-3.5	-0.9	2.7	0	-2.8	-1.6			

おわりに

ここでは宮崎県民の学習と学習希望の様相、それに学習希望と実際の学習の差を明らかにした。とくに3で示した内容は、今後の宮崎県が生涯学習を推進していく上で参考になると思われる。なぜならば、学習希望がありながら実際には学習ができていない学習内容が明らかになったことにより、今後どのような内容の学習機会を提供していったらよいかの手がかりが得られるからである。具体的にいうと、ある年代において「体力づくりや運動」にほかの学習内容に比べて比率の差がみられたとすれば、その年代を対象としたスポーツ関係の学習機会を提供するなどが考えられる。

今後、県民の学習や学習希望はさらに多様化、高度化していくものと思われる。これからも県民の学習や学習希望を把握するため、継続して生涯学習調査を行っていきたいと考えている。

註

1) この調査は、平成7年度、緒方が宮崎県教育委員会より研究委託を受けて行ったものである。具体的な調査の計画、実施、分析にあたっては、緒方のほか、草野、橋迫、岡安、原が行った。本稿の1、2は、その調査の報告書（緒方明夫他『生涯学習実態調査報告書』平成8年3月）の1部を修正したものであり、3は新たに分析を行って加筆したものである。

なお、本稿の執筆は原が担当した。

また、本調査の概要は次のとおりである。
 主な調査内容：①生涯学習推進への期待（生涯学習の重要時期、生涯学習推進方策への期待など）、②学習機会選択援助（生涯学習情報提供への要望）、③学習活動（学習活動の実態、学習目的の達成度、学習活動の充実感など）、④学習希望（学習内容）、⑤学習成果とその活用（活用の実態など）、⑥

ボランティア活動（活動の実態と希望）、⑦属性（性、年齢、職業、家族構成など）。

調査対象：宮崎県に在住の18以上の男女（平成6年10月1日現在で902255人）。

調査方法：郵送法および留め置き法。

調査実施期間：平成7年10月4日～12月31日。

サンプル抽出法：地域別および性別による層化抽出法。県内の44市町村を都市部、農漁村部、山村部にわけ、そのうち都市部9市町、農漁村部7町、山村部6町村の計22市町村を抽出した。さらに、これらの市町村から人口規模に応じてサンプル抽出を行い、合計3000のサンプルを抽出した（男女各1500）。

回収状況および回収率：サンプルの回収数は2106（有効回収数は2106）。回収率は70.2パーセント（有効回収率70.2パーセント）。

サンプリング誤差は、信頼度95パーセントの場合、最大で

$$\pm 2 \sqrt{\frac{902255}{902255-1} \times \frac{0.5 \times 0.5}{3000}}$$

$$= \pm 0.01832$$

であった。±1.8パーセントのサンプリング誤差というのは、例えばあることについての賛成の比率が50パーセントであったとすると（50パーセントのとき誤差は最大になる）、95パーセントの確率で全数を調べたときの実際の比率が48.2パーセントから51.8パーセントの間にあることを意味している。

2) この表の数値は、二重線より上段の男女の列は「性別」と「今やっている学習で最も関心をもっている学習内容」（表1-5の全体）と「新しく始めたい学習の内容」（表2-1の全体）の3重クロス集計の結果のうち、「今行っている活動を続けたい」についての比率である。

3) このように現在行っている学習の内容の比率を新しく始めたい学習の内容の比率と

合計して学習希望の比率を求める場合注意しなければならないことがある。それは、現在行っている学習が2つ以上ある場合（今回の調査では2つまで回答可能）には、今回のような方法では現在行っている学習の内容の比率を正確に算出できないということである。なぜなら、そのような場合、表3-1にある3重クロス集計の結果では、

現在行っている学習のうち最も関心をもっている学習は明らかになるが、それ以外の学習については明らかにできないからである。しかしながら、学習希望は少なくとも表3-2に示した比率はあるといえるので、ここではそのような限定を考慮して分析を行っている。

（1996年3月8日受稿，1996年3月21日受理）